

日本マス・コミュニケーション学会第 36 期第 6 回研究会(理論研究部会企画)

(共催)坂田ジャーナリズム振興財団

**「ネット時代の関西ジャーナリズムを考える」**

日時 2018年3月27日(火) 15:00-16:20

会場 クラブ関西 会議室

(〒530-0004 大阪市北区堂島浜 1 丁目 3-11 TEL : 06-6341-5031)

パネリスト

後藤正治 (作家)

櫻井純理 (立命館大学)

佐藤卓己 (京都大学)

渡辺武達 (同志社大学)

コーディネーター

黒田勇 (関西大学)

開催趣旨

日本の近代の中で、大阪のマス・メディアの果たした役割は大きい。商都大阪は、東京とは異なる、独自のジャーナリズムとメディア事業を育んできた。

しかし、20 世紀後半、徐々に経済の東京への一極集中がすすみ、それに伴い、徐々に活力を失いつつある関西のジャーナリズムには、新たな時代の役割と展望があるのだろうか。

さらにインターネットの普及した現代、既存のメディアジャーナリズムは、ネット民たちによって相対化され、時に、「マスゴミ」と呼ばれることもある。さらに、既存のマス・メディアに依存しないインターネット独自のジャーナリズムも生まれつつある。このようなメディア環境のもとで、既存のジャーナリズム、とりわけ関西のジャーナリズムには何が期待されているのか。

関西のジャーナリズムを取り巻く、この外的要因を意識しつつ、関西ジャーナリズムの意義とこれからの展望など、関西、あるいは「地域」にこだわっての議論ができればと考える。

なお、この研究会は、25 年にわたって関西地区のジャーナリズムを顕彰してきた坂田記念ジャーナリズム財団の記念シンポとしても位置づけ、坂田財団との共催とする。パネリストは、「坂田ジャーナリズム賞」の 5 人の審査員が登壇する。